

憲法市民ネット

ニュース (第4号)

2005・4・15

憲法をまもる北九州市民ネット事務局

八幡西区黒崎3丁目1番7号日生ビル

4階 黒崎合同法律事務所内

642-2868

e-mail:mail@kitaq-kenpou.net

地域の会を作ろう!! 小倉・思永校区の会が発足

憲法改悪の動きが早くなってきています。

「国民投票法案」への自民と民主の協議が始まるうとしています。しかし、各種の世論調査では国民の過半数は、平和憲法をまもる姿勢崩していません。憲法を守る世論を確かなものとするための運動の広がりが期待されます。

北九州地区での憲法まもる運動は、確実に広がり始めています。

各地区での「九条の会」が立ち上がり始めました。九日は、小倉の「思永校区・九条の会(仮称)」が設立総会を開き、今後、学習から始めることなど論議されました。家庭の主婦や、学生、さらに大学教授など多彩な顔ぶれの参加者で、論議が盛り上がりました。(裏面に写真と記事)

小倉地区では、このほかの地域・職場で「九条の会」づくりや「憲法ピクニック」などの取組が活発化してきています。



小倉南区山手地区で憲法改悪反対の百回宣伝に挑戦中の清水隆さん



憲法市民講座のご案内

北九州市民ネット主催の憲法問題「市民連続講座」が二十日行われます(毎月開催)。多くの方の参加を呼びかけています。

第三回「しのびよる戦争への道」

日時・四月二十日(水) 十八時半
場所・ウエル戸畑多目的ホール
講演・「侵略戦争と憲法」
再び加害者にならないために

迎 由理男北九大教授

「教育の危機と競争社会の行方」

三輪俊和北九大教授

健和会大手町病院・四月二十八日、憲法問題学習会を開催。今後、九条を守る医療人の会」結成に向けて準備中。

八幡西区・二ヶ森地区・年内2000筆を目標に、憲法署名の戸々訪問を続けています。週二日のペースで行っています。

小倉南区 守恒地区・地域の会づくりのための集まりを近く開催。

小倉北区 板櫃地区・近く、「憲法ビデオを見る会」を開催する。

門司区 西門司地区・「西門司九条の会」の立ち上げの準備会を近く開催する。

新聞OB会 北九州・泊り込み幹事会を和布刈で開き、憲法をまもる運動を論議。

第一法律事務所・毎週火曜日に西小倉駅で平和・憲法問題のピラ配付宣伝(現在五十五回)

その他にも、門司区・大積白野江 門司区、松ヶ江地区、八幡東区・尾倉地区、北九州大の職場と学生の中などで「会」づくりの動きが出ています。

宗教施設訪問

小倉ネット

小倉区民ネットでは、四月五日に、第二回目の「宗教施設訪問」行動を行いました。

仏教、キリスト教、天理教など宗派を問わず、総当たりする作戦です。相手が留守などで、一日だけでは会えないため、引き続き、電話で相手に時間を取ってもらいながら訪問を行っています。

平和、憲法・地域の動き

予定されている行動

- 小倉区民ネット
- 四月二十四日(日) 十一時・小倉駅前 街頭宣伝と署名行動
- 折尾九条の会
- 五月十三日(金) 折尾駅での宣伝行動
- 北九州市民ネット
- 五月十八日(水) 十八時三十分 第四回憲法連続講座
- ウエル戸畑 多目的ホール

署名集約

現在の集約では、一万三千五百三十九筆です。毎月末に集約します。各団体からのご報告をお願いします。

カンパのお願い

憲法をまもる市民ネットの活動支援カンパをお願いします。郵送料金などの活動費用に充てます。郵便局口座への振込みで協力して頂くようお願いいたします。

憲法市民ネットのホームページアドレス <http://kitaq-kenpou.net/>

(こけんコラム) 町長派?

“町長派反対”と叫んで回っているが、君たちは何者だ。突然、男たちに取り囲まれた。岡垣の「超長波通信施設設置反対」運動をしていた時のことだ。丁度、岡垣町の町長選挙が迫っていた時期で、誤解されたい。先日開かれた、日本平和委員会の九州沖縄ブロック交流会で、披露された話である。会場に笑い声が上がった。この「超長波通信施設」は、潜水艦に指令を出す施設で、岡垣町の市民の反対運動の後、反対勢力が弱いと見られたのか、宮崎県に設置されたという。米軍と自衛隊の戦争と侵略の軍事状況を分析し、平和を確立させる運動を各地で展開する九州各県の「日本平和委員会」の報告は、今の日本の置かれた厳しい状況が良くわかる。最近、米軍と自衛隊の軍備や訓練の一体化が一層進んできたことが報告された。大分・日出生台では、米軍の移転演習に自衛隊が、車両の運行の安全や、砲座の安全確保をしてやっている事も報告された。この頃、政治に腹が立つことが多い。政府がやろうとしている「ミサイル防衛」構想もそのひとつだ。米国の「ミサイル防衛(MD)」という兵器システムを日本が導入しようとしている。米軍でもまだその開発・配備にあたって、未完成であると発表されているシステムなのに、日本政府は費用1兆円をかけて迎撃ミサイルを配備しようとしている。「小銃で、小銃の弾を撃つより難しい」といわれるこの兵器システムを、なぜ導入するのか。北朝鮮のテポドンの脅威を利用しての戦略だろうか、その裏には、「死の商人」たちの暗躍が取りざたされている。アメリカの政府と「死の商人」にひざまずき、そのおごぼれを頂戴する日本の資本家と、アメリカに従属する政府の姿勢に、日本の将来が危うくされようとしている。平和を守る運動の大切さが見に染むこの頃である。(盾)